

# 審議会等議事概要

平成29年度 第2回 滝川市地域包括支援センター運営協議会 議事概要

|      |   |
|------|---|
| 日 時  | 平成29年11月30日（木曜日）午後5時58分～午後7時00分   |
| 開催場所 | 滝川市役所 5階 庁議室  |
| 出席者  | 鈴木忠男委員、池田吉隆委員、青木恵子委員、佐々木哲委員、齊藤秀希委員、鈴木弘子委員、深村完市委員、橋 弘恭委員（欠席：原岡研二委員）<br>事務局：國嶋保健福祉部長、黒川介護福祉課長（兼地域包括支援センター所長）、土橋同課長補佐、橋本同課介護保険係主査、相澤地域包括支援センター副所長、加地同センター介護支援係長  |
| 議 事  | <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>（1）平成29年4月～9月滝川市地域包括支援センター活動報告について<br/>事務局）資料に基づき説明を行った。<br/>委 員）資料3ページの4.（5）生活支援体制整備事業について、東滝川地区での地域支え合いの仕組みづくりへ向けて働きかけを行っているという報告だったが、具体的にはどういうことか。<br/>事務局）生活支援コーディネーターが東滝川地区の町内会・老人クラブ・ダンスサークル・いきいき百歳体操教室等へ4月から30回程度訪問しており、高齢化が進み介護者が不足している現状を地域の皆様に理解していただき、高齢者を地域全体で支え合う仕組みづくりが必要だという認識を持っていただいている段階なので、具体的にどのようにしていくのか検討する場をこれから作っていきたいと考えている。<br/>委 員）資料5ページの6.（2）成年後見制度市長申し立て件数は、前期で7件ということだが、昨年度は何件だったのか。<br/>事務局）昨年度は4件である。<br/>委 員）平成28年度から滝川市社会福祉協議会も法人後見の実施機関となり6件受託しているが、全て市長申し立てによるものか。<br/>事務局）そのとおりである。</p> <p>（2）平成28年度高齢者実態調査結果報告について<br/>事務局）資料に基づき説明を行った。<br/>委 員）滝川市町内会連合会連絡協議会でも地区によって温度差はあるが町内会単位等で、高齢者宅を訪問しているので、地域包括支援センターで行っている高齢者実態調査と何か関連づける方法はないのかということ意見を述</p> |

べておきたい。

委員) 高齢者実態調査は今後も実施していくのか。また、その効果は何か。

事務局) 高齢者実態調査を継続することによって、少しずつだが地域包括支援センターの認知度が高くなってきており、今後も実施していきたい。また、いきいき百歳体操教室の新しい参加者の中には、高齢者実態調査で聞いて参加したという方も増えてきているので、介護予防事業につながっている。

委員) 高齢化が高くなっているわりには、デイサービス利用者が増えていないように聞くと、その要因は何か。

事務局) 入浴や食事はいらぬが運動はしたいという男性高齢者も多く、特化型デイサービスを希望される方が増えているということも要因の一つとして考えられる。

委員) 高齢者実態調査の基本チェックリストは25項目あり、この中には外出に関する項目もあると思うが、外出の現状についても調査するという報告だったが、別のチェックリストを作成するのか。

事務局) 基本チェックリストの外出に関する項目には、週1回以上の外出の有無や昨年と比べて外出機会が減っていないかを確認するものがあるが、4割以上の方が週1回以上外出していないという回答だったので、基本チェックリストに加えて外出の状況についても別の調査表を用いて聞き取りを行うなど、今後の閉じこもり予防対策の検討に向けた調査を実施したい。

委員) 委託ではなく、地域包括支援センター職員が訪問しているのか。

事務局) そのとおりである。

委員) 高齢者実態調査は何年毎に訪問するのか。見守りのため高齢者宅を訪問しているが、1年前はお元気だった方が、再び訪問した際には虚弱になっており、デイサービスに通ったらどうかとお話しをするが、なかなか行きたがらない方がいるなど苦慮することがある。

事務局) 高齢者実態調査は全地域を終了するのに3～4年程かかる。心配な高齢者の方がいらした場合には、地域包括支援センターにご連絡いただければ、調査に関係なく対応していきたい。

(3) 平成29年4月～9月認知症初期集中支援チーム活動報告について

事務局) 資料に基づき説明を行った。

(4) 地域ケア推進会議について

事務局) 資料に基づき説明を行った。

委員) 地域包括支援センター運営協議会を地域ケア推進会議と位置付けて、所管事項の一つとして地域課題の把握・解決を挙げているが、課題があったとしてもどのように提案していけばいいのかが難しいと思う。具体的には、高齢のため車の運転は危険になっているが運転免許証の返納にはご家族が取り組まなければ話が進まないし、足腰の弱った高齢者にとって車は生活するために必要であるという案件を地域ケア推進会議で取り上げていけたらいいとは

|      |  |
|------|--|
|      | <p>思うが難しい課題である。</p> <p>会 長) 運転免許証を自主返納する方も増えてきているように聞くが、この会議で結論を出すには難しい課題かもしれない。</p> <p>委 員) 地域包括支援センター運営協議会の名称はそのまま、地域ケア推進会議の内容を盛り込むというものなのか。</p> <p>事務局) 先程、説明させていただいた高齢者実態調査結果報告や認知症初期集中支援チーム活動報告と同様に、個別で行っている地域ケア個別会議の報告をさせていただき、滝川市の地域課題の把握と検討等をしていただきたい。</p> <p>委 員) 現在、実施している地域ケア個別会議はそのまま行い、それとは別に地域包括支援センター運営協議会で地域ケア推進会議を行うということか。</p> <p>事務局) そのとおりである。</p> <p>委 員) それぞれの課題は地域ケア個別会議で検討していただくとして、地域課題の把握・解決、地域づくり資源開発・政策形成をするとすると相当幅広くやらないといけないと思う。政策を形成して、最後は介護保険事業計画に結び付けるということなのか。</p> <p>事務局) 内容により介護保険事業計画に結びつくものもあると考えている。</p> <p>委 員) 地域ケア個別会議で蓄積された地域課題等を様々な立場から検討していくことは良いことなので、地域包括支援センター運営協議会を地域ケア推進会議と位置付けることには賛成である。</p> <p>委 員) 地域づくり資源開発・政策形成について素案が示されて、地域包括支援センター運営協議会の時間の中で検討するのか。持ち帰って委員各自で検討するのか。</p> <p>事務局) 事務局にて素案を作成し、地域包括支援センター運営協議会において、ご審議いただくということを考えている。</p> <p>会 長) 事務局からの説明のとおり、地域包括支援センター運営協議会を地域ケア推進会議として位置付けることとして良いか。</p> <p>各委員) 異議なし。</p> <p>会 長) そのように決定する。</p> <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度内において本日が最終の会議となる予定である旨、次回会議は平成30年5月頃に開催する旨、同年3月31日で現委員の任期が満了となることから、2月頃に事務局から各選出団体へ委員の推薦依頼を行う旨の確認を行った。</li> </ul> <p>5 閉 会</p> |
| 会議資料 | 資料 第2回滝川市地域包括支援センター運営協議会次第・議案資料  |